

遠い北極、 なぜ観測？

日本から北極点まで約6000キロも離れた地域の研究をなぜ行うのか。海洋研究開発機構の北極環境変動総合研究センター(IACE)の菊地隆センター長は「一つは、北極の環境変化が日本の気象にも影響

厳冬**豪雨****大気汚染****日本に影響**

するからだ」と説明。北極では地球温暖化の影響がほかの地域に先駆けて現れているとして、「いつか日本で起きることを知るのは、日本人にとって無関係ではない」と強調する。

冬をもたらすという成果だ。温暖化の影響が北極圏で顕著に現れ始めた2000年ごろ、夏の海水面積の最小記録更新が続いたが、海洋機構の研究者らは記録更新後の冬は

◇温暖化なのに雪増加 インパクトがあったのは、北極に関する研究で大きな 極海での海水減少が日本に厳

日本では寒波や豪雪が多いことに気付き「なにか関係があるのでは」と調べ始めた。

12年の論文では、気象データの解析などから北欧3国などに面する北極圏のバレンツ海で海水が少ない冬は、低気圧が平年より北寄りに進み、シベリア高気圧が拡大することを解明。強い寒気が形成され、日本に寒波や豪雪をもたらしていることが分かった。菊地さんは「温暖化により雪が増えるという一見矛盾した話だが、国際的にも話題になった」と振り返る。



北極海で使われた観測ブイの前に立つ海洋研究開発機構の菊地隆・北極環境変動総合研究センター長。8月14日、神奈川県横須賀市